

13

自治
財政局

地方財政の使命

自治財政局
調整課企画係長
富澤 尚史
平成 19年入省

■ PROFILE Tomizawa Naofumi

平成19年	4月	総務省採用 大臣官房秘書課
平成20年	4月	自治税務局固定資産税課資産評価室
平成21年	4月	鹿児島県総務部市町村課
平成23年	4月	自治財政局財政課
平成25年	4月	自治財政局財政課総務室総務係長
平成27年	4月	現職

🔊) 政策調整の最前線

社会保障や社会資本整備など生活と関連する行政の多くを、地方自治体が担っています。その役割に見合った財源を確保すること。そして、日本中どこに住んでいても一定水準の行政サービスが受けられるように担保すること。それが自治財政局の使命のひとつです。

その中でも調整課は、国が行う政策に対し地方の立場から意見を述べ、国・地方の役割分担や財政負担の割合などを調整する部署です。職員一人ひとりが、担当する府省の制度・施策について幅広く理解した上で、各府省と熱い議論を交わし、知恵を出し合い、より良い政策を作り上げていくために日々奮闘しています。例えば私は、地方創生のための交付金、整備新幹線の建設、羽田空港の騒音対策などの調整に当たっています。

社会から注目されるようなホットな課題を抱え、国民生活に近いところで仕事をしていることを実感できる職場でもあり、刺激的な毎日を過ごしています。

🔊) 熱意に応える職場

東日本大震災から5年が経ちました。発災当日、私は鹿児島県に出向中。その翌月に総務省へ戻り、まずは一刻も早い被災地への財政支援が求められました。混乱した状況の中では被災地の具体の財政需要を把握することが難しく、混迷を極めました。無事に資金が行き渡った時、安堵したことは今でも印象深いです。その後も、復興のための財源確保やそのための地方公務員給与引下げのお願いなど、日々復興のために奮闘できたことは、私にとって宝となっています。このような困難な課題を乗り越えられたのも、相談しやすい上司や同僚に恵まれているからだと思っています。

また、人口減少、地方衰退が課題とされる中、地方の現場感覚をいかに国の政策に吹き込むかが重要です。総務省では、人事交流による地方自治体での勤務を通じて、それを学ぶことができます。地方自治への熱い想いをを持った皆さんを飽きさせることは決してない職場であると考えています。

Private Time

仕事の区切りがついた日は、帰りに同僚と飲みに行ったりリフレッシュ。最近では、気軽に寄れる“立ち飲み”にはまっています。休日は休養するだけでなく、体力維持のため適度に体を動かすことを心がけています。プールで泳いだり、妻と東京近郊の山へトレッキングにでかけたりしています。両国国技館での相撲観戦も好きです。



● 月曜日

新幹線建設の財政措置について、上司とともに国会議員へ説明。

● 火曜日

与党の会議に上司が出席。不測の事態に備え資料を持って随行します。

● 水曜日

翌日の国会質問の準備。地方創生への支援に関するものです。

● 木曜日

財政支援について地方からの要望を受付。現場の生の声を聞くことは大事です。

● 金曜日

担当業務の進捗状況を上司に説明。ストーリー性のある説明を心がけます。